

光陵



光陵



光陵



光陵

評定を導き出すまでのポイント

ト

光陵



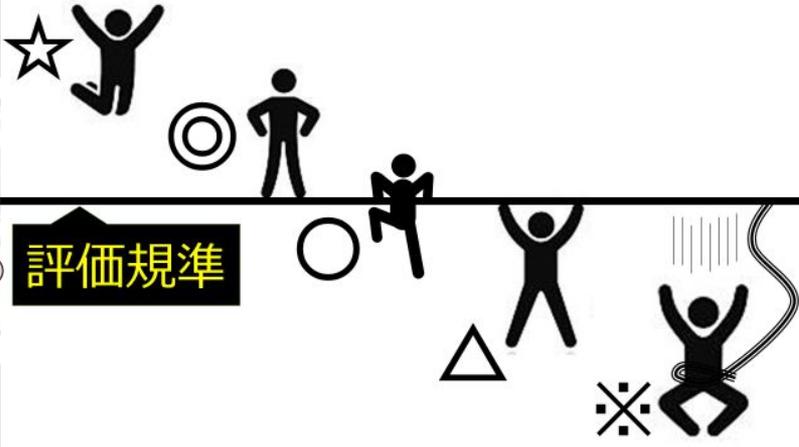
光陵

光陵

光陵



生徒のパフォーマンスを評価するためのツールを紹介します！



光陵



作成：神奈川県立光陵高等学校
研究開発グループ

評定を出すための手順

「〇〇単元」の学習
単元の目標（育成したい資質・能力）⇒【単元の評価規

準】

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

「□□単元」の学習
単元の目標（育成したい資質・能力）⇒【単元の評価規

準】

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

複数の単元を繰り返していく

評定を出すための手順

「〇〇単元」の学習

単元の目標（育成したい資質・能力）⇒【単元の評価規

準】

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

3つの観点に基づいた【個々の学習活動】
の評価を実施

「□□単元」の学習

単元の目標（育成したい資質・能力）⇒【単元の評価規

準】

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

個々の学習活動
パフォーマンス

複数の単元を繰り返していく

3つの観点に基づいた【個々の学習活動】の評価から、各観点ごとに集約し【観点別学習状況の評価】を見つける。

観点別学習状況	表記
十分満足できるもののうち、特に程度が高い	A+
十分満足できる	A
おおむね満足できる	B
努力を要する	C+
一層の努力を要する	C

観点別学習状況の評価をポイント化し、評定を導き出す。

評定	5	4	3	2	1
ポイント	14~15	11~13	8~10	4~7	3

A+A+A+	15ポイントで評定「5」
AAA	12ポイントで評定「4」
BBB	9ポイントで評定「3」
C+C+C+	6ポイントで評定「2」
CCC	3ポイントで評定「1」

ルーブリック（評価基準表）の活用

観点別学習状況の評価を導き出すために、多面的な学習活動を実施する。

【個々の学習活動】において生徒が身に付けた資質・能力を見取るための評価方法の一つとして「ルーブリック」を活用することが有効である。

ループリック（評価基準表）の活用

その際に、全ての生徒に到達してほしいレベルである“評価基準”を設定する。

※この評価基準は【個々の学習活動】
の評価基準であって、【単元の評価規
準】とは異なる。

【単元の評価規準】と【個々の学習活動の評価規

準】

【単元の評価規準】は単元全体を見取るためのものであり、【個々の学習活動の評価規準】は【単元の評価規準】を見取る“パーツ”のようなものである。

【個々の学習活動】の評価規準は、生徒がわかりやすい生徒目線の評価規準を作成することが望ましい

【個々の学習活動の評価規準】の基本型の提案

「～について・～を (①学習活動)

～しながら・～して (②資質・能力)

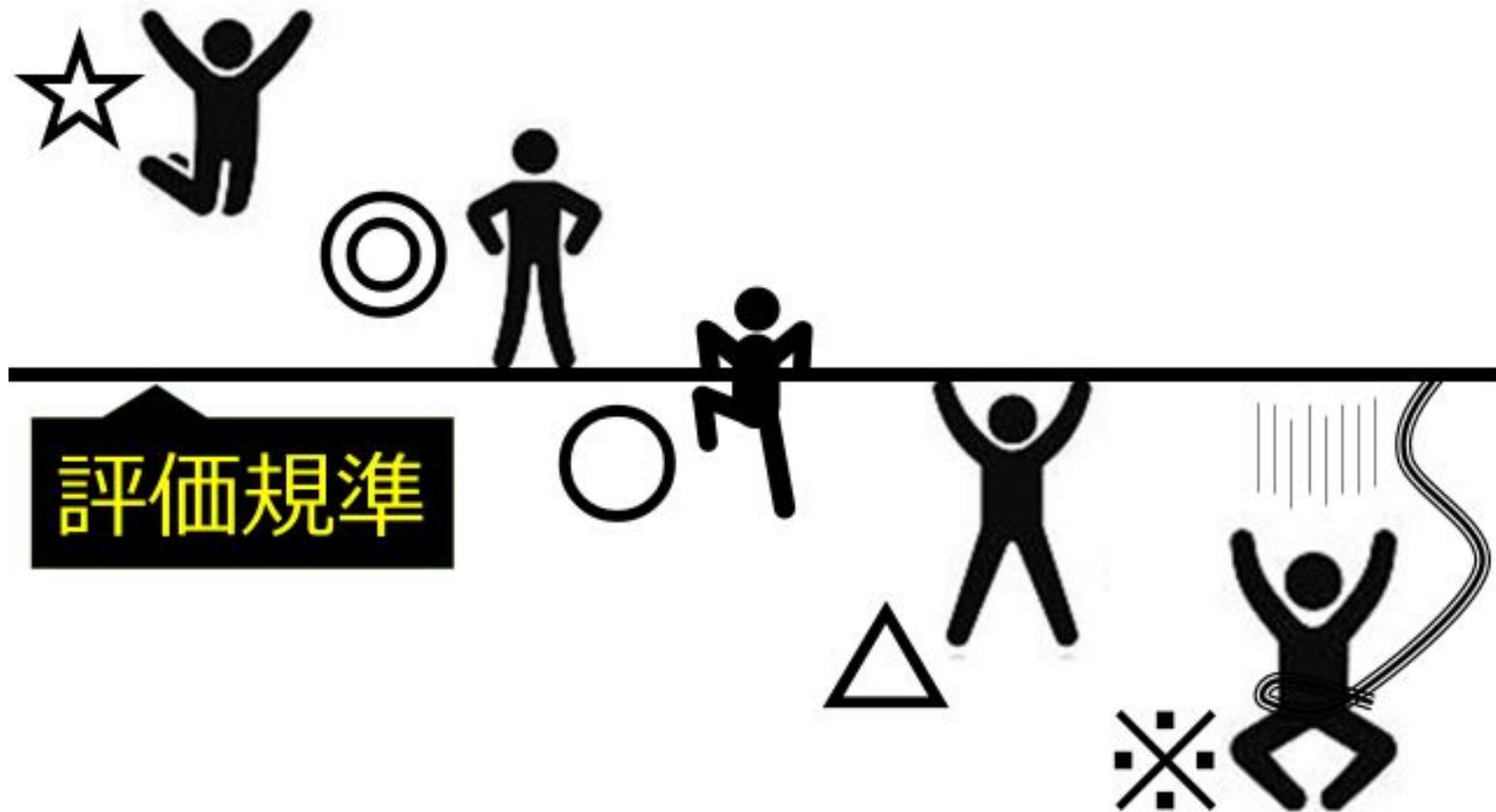
～している・しようとしている

- ①教師がどのような【学習活動】をさせ、
- ②教師がどのような【資質・能力】を求めているのか、
- ③その求める資質・能力を生徒がどのように発揮【行為】しているのか、を示す。

観点ごとの文末表現例

観点	生徒の【行為】に係る文末表現例
知識・技能	「〇〇を理解している。」 「〇〇の知識を身に付けている。」 「〇〇することができる。」 「〇〇の技能を身に付けている。」
思考・判断・表現	「思考したり、判断したり、表現したりしている。」 ※2つでも可「(思考)したり、(表現)したりしている。」 ※1つ1つ分けて取り上げることも可その際は「～している。」
主体的に学習に取り組む態度	「～したり(するとともに)、～しようとしている。」 ※設定においては、他の2つの観点のそれぞれ重要な要素を取り上げ、合わせた文章とする。 「【知識及び技能】を身に付けたり(するとともに)」 「【思考力、判断力、表現力等】を～しようとしている。」

評価のイメージ (提案)



到達の尺度（度合い）	記号	イメージ
<p>十分満足できる中で、<u>特に程度が高い</u> （教師の想定を超え、非常に程度が高い。）</p>	☆	
<p>十分満足 （設定した評価規準にしっかりと（明確に）、到達している。）</p>	◎	
<p>どちらかというと、満足 （設定した評価規準に達している点がある。もう少し、努力等をすれば、十分満足できるレベルに達する。）</p>	○	
<p>努力を要する （設定した評価規準に達していない。）</p>	△	
<p>一層の努力を要する （学習活動不参加、未提出など）</p>	✖	

このイメージについて生徒も教師も共通理解を図れていれば、

必ずしも、各階層の記述語（ルーブリックの各階層の評価記述）は必要ない。

ただし、**明確な【個々の学習活動の評価規準】**
の設定が必要となる。

※ルーブリックの各評価文の作成を否定するものではない。

評価のイメージ (提案)



評価規準は“ — ”の部分。

◎も○も評価規準とイコールではない。
規準さえ明確で、このイメージを生徒
と教師が共有していれば、評価の信頼
性や妥当性を持たせることもできる。

評価規準

また、△、※は評価結果を伝
えるときに教師がアセスメン
トをする ことで、○や◎への
引き上げも期待できる！

到達の尺度 (度)	記号	イメージ
十分満足できる中で、 <u>特に程度</u> (教師の想定を超え、非常に程度)	☆	
十分満足 (設定した評価規準にしっかりと (明確に)、到達し)	◎	
◎の下、○の上が【評価規準】		
(設定した評価規準に達している点がある。もう少し、 努力等をすれば、十分満足できるレベルに達する。)	○	
努力を要する (設定した評価規準に達していない。)	△	
一層の努力を要する (学習活動不参加、未提出など)	✖	

全員が☆はありえない。だとしたら、目標が低すぎる。

【個々の学習活動】から観点別学習状況の評価、評定への総括

3つの観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度



観点ごとに評価結果を蓄積・集積し、観点別学習状況の評価を導き出す。

知・技 = A+

思・判・表 = A

主体態度 = A

ポイント化 = 13

評定 = 4

確認①

○【個々の学習活動】の蓄積・集積結果

⇒【単元の評価規準】の到達度

○【単元の評価規準】はさまざまな要素で構成されることが多いため、一度に全ての要素を見取ることが困難な場合もある。

⇒【個々の学習活動】で各要素を見取るために生徒にパフォーマンスをさせる。

※毎時に行う必要はない。

(ペーパーテストもその一つ)

確認②

○生徒に課すパフォーマンスを見取るためには「ルーズブリック（評価 **基**準表）」が有効。

○その際に、明確な【個々の学習活動の評価 **規**準】が重要となる。

確認③

○ルーズブリックは各階層を示す記述語を事前に準備し、生徒に提示する必要があるが、特に各階層における差を表す記述語の設定は難しい点もある。

○光陵高校では、ルーズブリックのイメージ図（ピクトグラム）を用いることで各階層の記述語は必ずしも必要ないことを提案する（各階層の記述語を示すことを否定するものではない）。

確認④

○ルーブリック（評価**基**準表）各階層の記述語は必ずしも必要ないが、評価規準は示す。

○その評価**規**準は生徒目線の記述語が望ましい。

「①学習活動 ②資質・能力 ③行為」
の構成（学習指導要領解説を参考に）

やはり重要なのは、【評価 **規**準】。

先生方の「生徒に到達してほしいレベル」を明確にし、学習活動を行うことで、**評価の信頼性と妥当性**は担保できる！